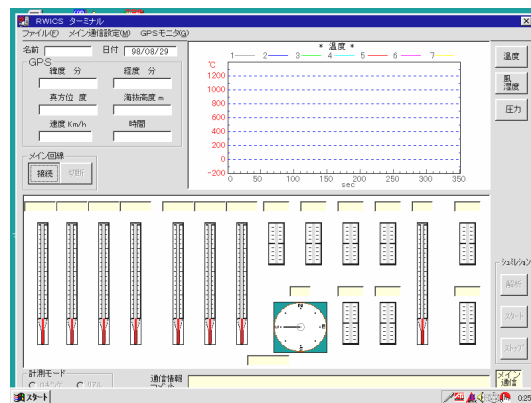


RWICS

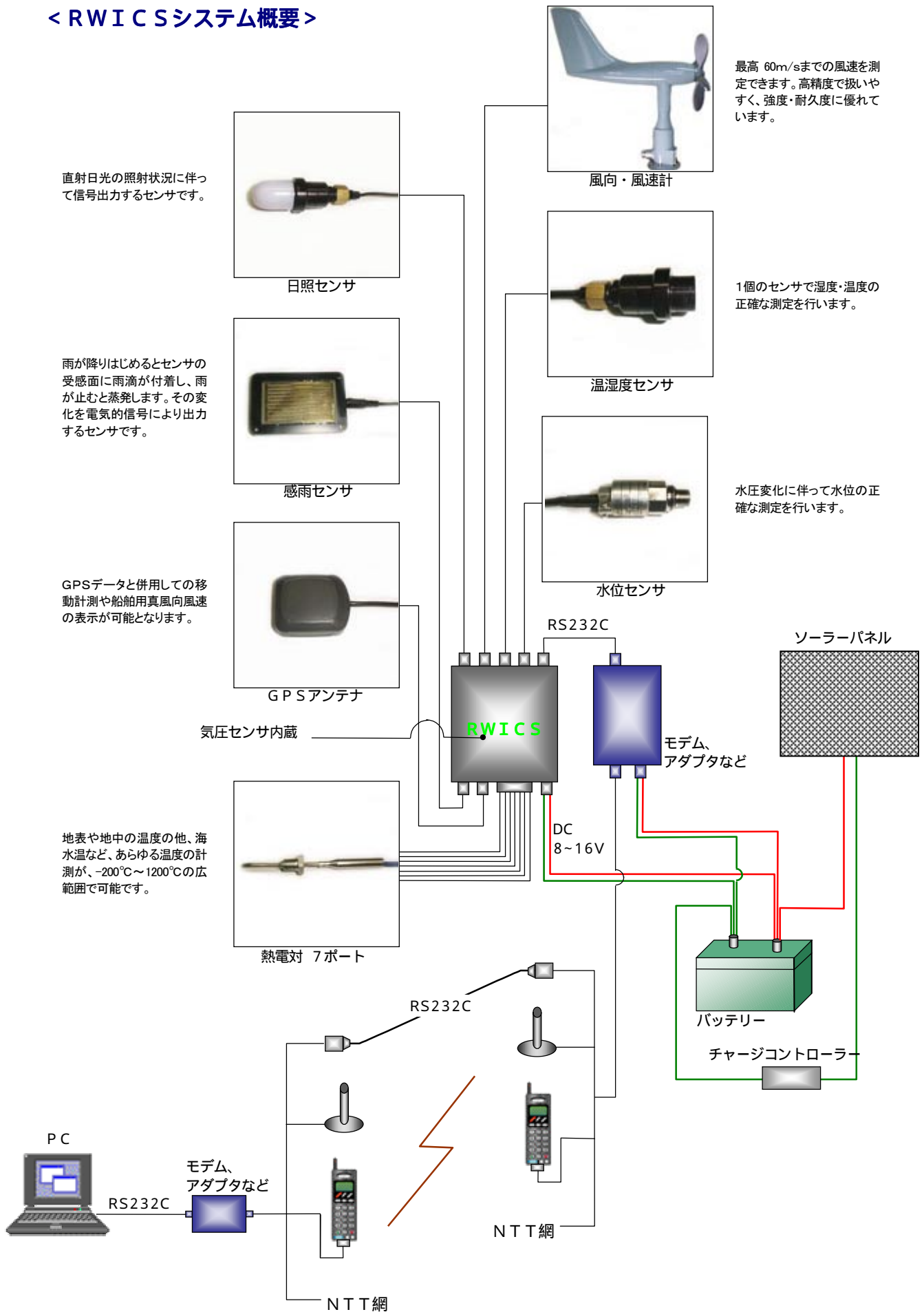
RWICS (ルイクス) は、気象観測および海洋調査や各種温度調査など情報の遠隔監視を効果的に支援するシステムで、付属の Windows 95/98 対応ソフトウェア Rwics Terminal を使用して、無線機や電話回線・携帯電話・衛星移動通信機 (Hayes ATコマンド準拠) など、各種回線経由で運用するテレメトリーシステムの構築で、遠隔地からデータの解析やシミュレーションが可能です。



特長

- ・超小型 100 (W) × 35 (H) × 126 (D)
気圧 風向 風速 気温 湿度 水位 日照 感雨 温度 × 7 ポート (-200 ~ 1200) の計測機能を搭載し、ロギングと共にリアルタイムな情報を送信する超小型で高性能なテレメトリーシステムです。
- ・各種通信回線 (NTT回線 移動通信網 PHS網 無線機などに対応)
テレメータの運用やロギングデータのダウンロードなど、通信手段としてRS-232Cケーブルのほか、各種通信回線の使用が可能で、パソコンを使用して遠隔地からリアルタイムに情報のモニターをしたりロギングの時間予約をするなど、ルイクスのコントロールができます。
- ・3電源運用
設置する条件にあわせて AC・DC(8V~16V)・充電式内蔵NiMH電池の3電源から選択できます。また、ソーラーパネルを設置して長期間の連続運用も可能です。
- ・ロギング間隔設定機能
計測対象により、1秒(min)~3600秒(max)の間隔で、ロギング間隔を任意設定することができます。また、内部メモリーに最大12000回分の記録が可能です。
- ・GPSデータ出力機能 (オプション)
GPSデータの出力が可能で、各種計測データと共にロギングすることで、移動計測する際の位置情報を把握することができます。

< RWICSシステム概要 >



RWICS 2 の主な仕様

センサ入力部

項目	仕様及び推奨動作条件
気圧	- 66.7 kPa ~ + 66.7 kPa (本体内蔵)
風速	2.0 ~ 60.0 m/S (オプション)
風向	0 ~ 360度 16方位表示 (オプション)
湿度	0 ~ 100% RH (オプション)
気温	- 40 ~ 80 (オプション)
水位	0 ~ 20m (オプション)
感雨	センサ表面が乾いた状態(晴れ)または濡れた状態(雨) (オプション)
温度 No.1~7	- 200 ~ 1200 K熱電対 (オプション)

インターフェイス

項目	仕様
規格	RS232C
伝送速度	115200 57600 38400 19200 9600 4800 2400bps
伝送方式	調歩同期式

GPS

項目	仕様及び推奨動作条件
受信機	
受信チャンネル	8チャンネル
追尾方式	パラレル追尾方式
受信周波数	1575.42MHz
受信コード	C/Aコード(L1波)
入出力	- 40 ~ 80
RS-232C	0 ~ 20m
通信プロトコル	NMEA-0183
データ更新周期	約1秒
測地・座標系	WGS-84
使用温度範囲	- 30 ~ + 80
使用湿度範囲	90%RH以下
追尾能力	
速度	1851.9 km/h未滿
高度	- 999.9m ~ 17999.9m
UTC同期パルス精度	± 1 μsec

機能

項目	仕様及び推奨動作条件
電源	
ACアダプター	入力電圧100V
DC入力	8V ~ 16V
内蔵NiMH電池	4.8V 1200mAh
外形寸法	100mm(W) x 35mm(H) x 126mm(D)
重量	550g(バッテリー含む)

はじめに

このたびは、RWICSまたはRWICS関連商品をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

RWICSは、気圧 風向 風速 気温 湿度 水位 日照 感雨 温度×7ポート(-200~1200)の計測機能を搭載し、ロギングと共にリアルタイムな情報を送信する超小型で高性能なテレメトリーシステムです。そして、その情報を各種の通信回線を経由して転送したり、モニターすることで、遠隔地の気象情報や設備の監視を効果的に支援するコストパフォーマンスの高いシステムです。-40 ~ 1200 のワイドな計測範囲と0.1 の分解能を持つ温度ポートをはじめ、各センサからの情報を設定時間毎(1秒~3600秒の範囲で任意に設定可能)に約12000回分のロギングができます。

それは、1分毎の情報をロギングしたとして、8日以上もの情報になります。

また、付属のWindows 95/98対応ソフトウェア、RWICS Terminalを使用することで、解析やシミュレーションのほか、無線機や携帯電話・衛星移動通信機(Hayes ATコマンド準拠)などを利用して運用するテレメトリーシステムにも対応しています。

安全にお使いいただくためにかならずお守りください

表示の説明



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



お願い

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品が持つ本来の性能を発揮できないことや機能停止をまねく内容を示しています。

図記号の説明



この記号は禁止の行為であることを告げるものです。
具体的な禁止内容は、(左図の場合は分解禁止)図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。



この記号は実行していただくことを強制したり指示する内容を告げるものです。
具体的な指示内容は、(左図の場合は電源プラグを必ずコンセントから抜いていただくことを強制する)図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。



必ず実行していただく強制内容です。
具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

ご注意

1. 本書の一部または全部を無断で転載、複写することは硬くお断りします。
2. 本書の内容は予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容について万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどにお気づきの点がありましたらご連絡ください。
4. 本製品の運用した結果および故障、誤作動、あるいは外部要因により生じた結果については責任を負いかねます。
5. 本製品を当社の許可なく分解・改造を行った場合、製品に対する保証を負いかねます。
6. 本製品は日本国内向け製品です。海外ではお使いになれません。
This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

: Windows 95/98は、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

: Hayesは、米国Hayes Micro Computer Products, Inc.の登録商標です。

もくじ

お使いになる前に

RWICS概要	1
はじめに	4
もくじ	5
ご使用上の注意	6

RWICS

商品の確認	7
各部の名称と接続	8
RWICS各部の名称と接続	8
ACアダプターの接続と充電	10

RWICS Terminal

RWICS Terminal のインストール	11
Windows 95/98 でのインストール	11
データ通信	15
ケーブルによるパソコンとの接続	15
無線モデムによるパソコンとの接続	17
携帯電話等移動体通信用アダプタやモデムによる接続	20
ロギング条件の設定とダウンロード	24
ロギング条件の設定	24
ダウンロード	26
シミュレーション	27
ログファイルの読み込み	27
シミュレーション	28

ご使用上の注意



警告

本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

もし、煙がでている、変なおいがあるなどの異常が発生したときは、すぐに電源からプラグを抜いてください。

お手入れをするときは、電源からプラグを抜いてください。抜かないでお手入れをすると、感電の原因となることがあります。また、電源プラグについたほこりは定期的にはふき取るようにしてください。そのまま放置すると火災の原因となります。

近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜くとともに本機に接続されているケーブルを取り外しご使用をお控えください。

本機は防水仕様ではありませんので、水が入ったり、濡れることのないようご注意ください。火災・感電などの原因となります。

濡れた手でコンセントに触れないように注意してください。感電の原因となります。

ACアダプターを加工したり、電源やセンサのコードを曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけて加熱しないように注意してください。

指定の電源電圧以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電などの原因となります。

電源コンセントに他の電気器具を同時に接続するばあいは、合計電流値が規定をこえないように注意してください。

本機を外部DC電源で運用するときの電源電圧は12V～15Vです。大型車などの24Vには接続しないでください。

引火性ガスの発生場所では、電源を入れないよう注意してください。発火の原因となります。

航空機内や病院など使用を禁止された場所では使用しないように注意してください。



注意

付属のACアダプター以外は使用しないでください。ACアダプターはコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターのプラグに金属などが触れると火災・感電の原因となります。

ACアダプターを抜くときは、必ずACアダプター本体を持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となります。



お願い

動作中に接続コードが抜けたり、振動などにより接続が不安定になると誤動作の原因となります。また、コネクタの接続部にはストレスがかからないよう注意して取り付けてください。

内蔵バッテリーは規定の時間を越えて充電しないでください。

バッテリー本来の性能が維持できなくなります。

内蔵バッテリーを完全に放電するとバッテリーの性能が極度に低下するとともに本機の各種メモリーが消失しますので注意してください。




商品の確認

RWICS システム をご使用のお客様へ





製品同梱品

		
コントロールユニット	ACアダプター	

オプションの電源関連ケーブルとブラケット

			
<p>05281 DC 入力変換コード</p> <p>* AC アダプタを使用して RWICS を運用する場合に使用する変換コード。</p>	<p>05282 外部バッテリー接続コード</p> <p>* RWICS を自動車用バッテリーなど、外部電源で運用する場合に使用するコード。</p>	<p>05021 ブラケット</p> <p>* RWICS のコントロールユニットを固定するために使用します。</p>	

オプションの通信・テレメトリー関連ケーブル

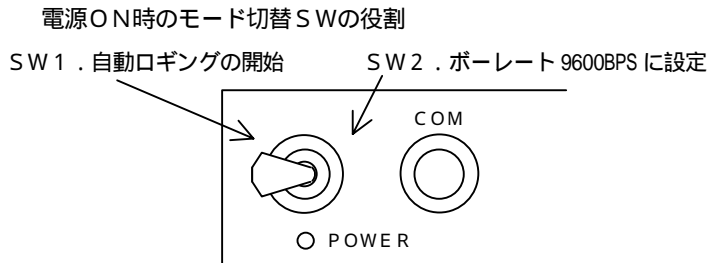
			
<p>05283 COM Port mini cable</p> <p>* 通信ケーブルで RWICS 側 COM ポートに接続します。</p>	<p>05284 Reverse cable</p> <p>* RWICS とパソコンとをケーブルで通信する際に使用します。</p>	<p>05286 RS232C cable</p> <p>* パソコンの COM ポートに接続します。</p>	<p>05285 モバイル変換ケーブル各種</p> <p>* テレメトリー運用の際に使用するアダプタに応じたものを使用します。</p>

各部の名称と接続

RWICS各部の名称と接続

オプションのブラケットに付属のボルト (M 6 × 1 0) を使用してコントロールユニットを取り付けてください。
ねじ部が、付属のボルトより長いものを使用すると回路内部が破損しますので注意してください。

1. POWERランプ
本機の電源が入っているときに点灯します。
2. モード切替スイッチ
SW1の側で電源スイッチをONすると同時にロギングを開始します。
パソコンが手元がない場合など、パソコンからロギング条件設定をすることなく直接ロギングを開始させたい場合に使用します。
また、SW2の側で電源スイッチをONした場合は、ボーレートを初期値の9600bpsに変更します。



3. COMポート
パソコンのシリアルポートやデータ送信用各種モデム・アダプターなどを接続します。
初期状態では9600BPSです。

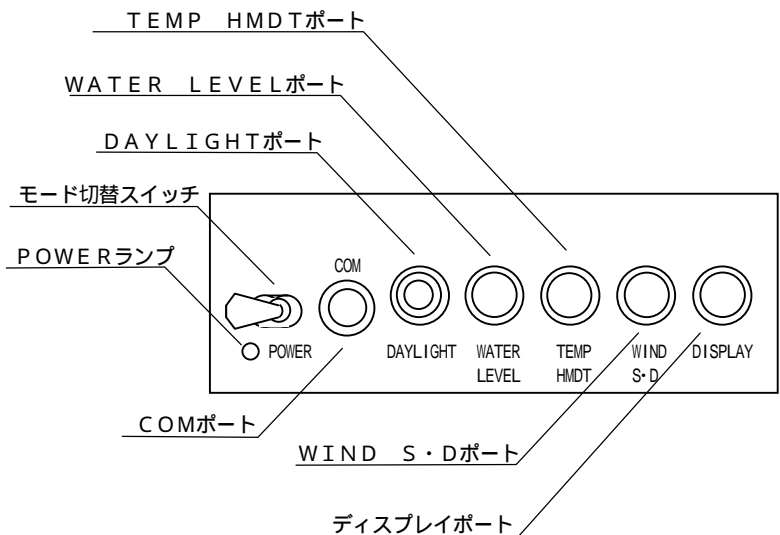
4. DAYLIGHTポート
オプションの日照センサを接続します。

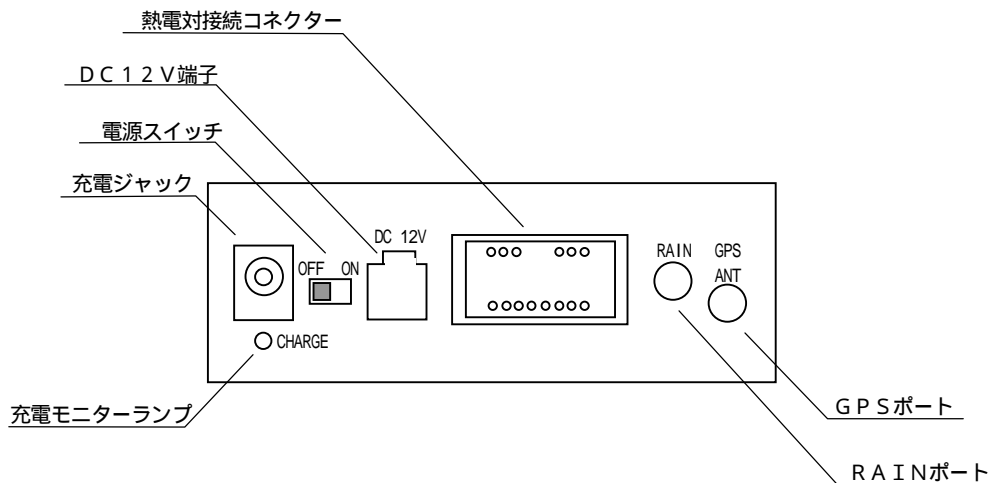
5. WATER LEVELポート
オプションの水位センサを接続します。

6. TEMP HMDTポート
オプションの温・湿度センサを接続します。

7. WIND S・Dポート
オプションの風向・風速計を接続します。

8. ディスプレイポート
オプションのディスプレイを接続します。





9. 充電モニターランプ
付属のACアダプターで内蔵バッテリーを充電している時に点灯します。
10. 充電ジャック
付属のACアダプターのプラグを接続します。
11. 電源スイッチ
RWICSを内蔵バッテリーで運用するときの電源スイッチです。
外部電源(12V~15V)で運用するとき、この電源スイッチはON OFFにかかわらず外部電源が優先となります。
この電源スイッチを、ONにした状態で、外部電源を接続した場合は、外部電源の遮断と同時に、内蔵バッテリー(あらかじめ内蔵バッテリーが充電されていて、運用可能な電圧レベルであること)に切り替わって運用を続け、RWICSはOFFしません。UPSなどによる停電対策が困難なばあい、外部電源で運用するときはあらかじめ内蔵バッテリーを充電し、電源スイッチONで使用してください。ただし、数ヶ月を超える長期連続運用するばあいは、内蔵バッテリーがRWICSを運用可能なレベル以下にまで自己放電していることがあり、その場合、内蔵バッテリーでは停電対策ができなくなりますから注意してください。
12. DC12V端子
ソーラーシステムなど外部バッテリー電源で運用するときは、オプションの外部バッテリー接続コード(赤+ 黒-)を使用します。
結線の際は、バッテリーのターミナルをはずしてショート危険を避けて作業してください。
13. 熱電対接続コネクタ
K熱電対の接続ポートが7ポートあります。測定対象に応じた各種センサの接続をします。
14. RAINポート
オプションの感雨センサを接続します。
15. GPSポート
オプションのGPSモジュールの装着に応じて、アンテナを接続します。

ACアダプタ - の接続と充電

1. 電源スイッチOFFを確認してください。
2. 付属のACアダプターを使用してRWICSを運用する場合は、あらかじめアダプターのDCプラグに、オプションのDC入力変換コードを接続してからDC12V端子に接続してください。
3. ACアダプターをコンセントに差し込むと同時に、電源スイッチがOFFでも本体回路はONします。
4. 内蔵電池を充電する場合は、付属のACアダプターのDCプラグを本体の充電ジャックに差し込んでください。
5. 付属のACアダプターをコンセントに差し込み、約2時間30分で急速充電が終了するとモニターランプが消灯し、通常のトリクル充電を開始します。

注意

電池の性能が低下する事がありますので、つぎのことは必ず守ってください。

長時間放置し、連続してトリクル充電をしないでください。 5 ~ 40 の温度範囲で充電してください。

完全に充電すると連続して最大約10 時間、内蔵電池での運用ができます。

使用中に電池がなくなるとディスプレイのBATT・LOWが点滅し、やがてオートパワーオフ機能が作動してPOWERランプが消えますが、電源スイッチはONになっていますので一度OFFしてから忘れずに充電してください。充電を行う前に再びONにするとオートパワーオフが作動しないで完全放電し、電池の性能が極度に低下するとともに内部メモリーが消失します。

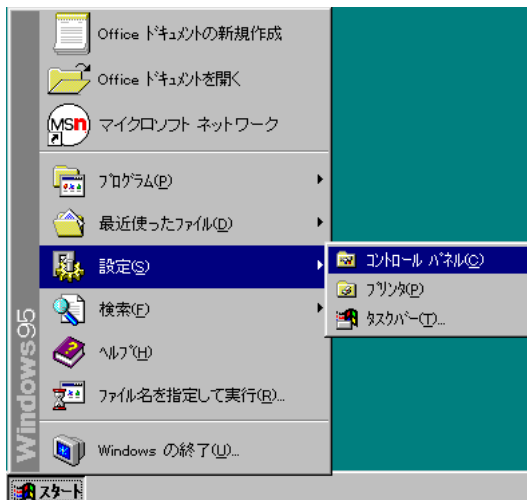
お買い上げ直後や長時間使用しなかったときは充電電池が消耗していますのでご使用前に充電してください。

Rwics Terminalのインストール

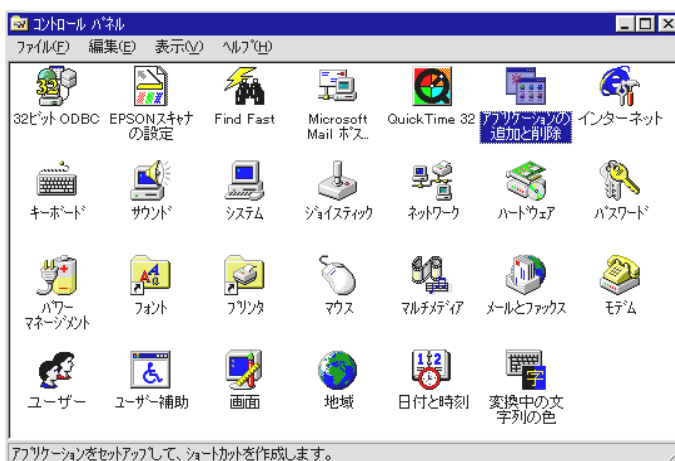
Windows 95 / 98でのインストール

ハードディスクはCドライブ・フロッピーディスクドライブ1はAドライブに割り当てられていることを前提としています。これと異なる割り当てをしている場合は、割り当てに応じたドライブ番号に替えてインストールをしてください。

1. Rwics Terminal のフロッピーディスク「#1」「#2」を用意します。
2. 他のアプリケーションを全て終了してから、「スタート」をクリックし、「設定」の「コントロールパネル」をクリックします。



3. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。



4. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」の表示から、「セットアップ (1)」ボタンをクリックします。



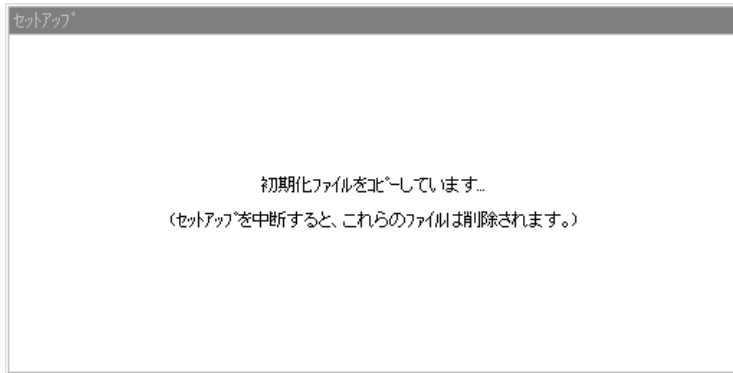
5. Rwics Terminal のフロッピーディスク「#1」をAドライブに挿入し、「次へ (N)」ボタンをクリックします。



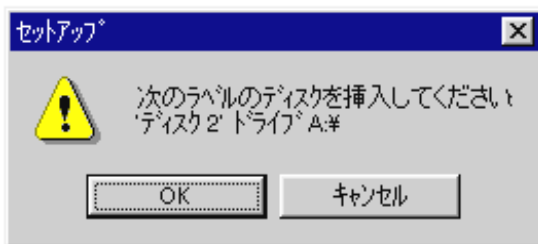
6. セットアッププログラムのコマンドラインに「A: ¥SETUP.EXE」と表示されていることを確認し、「完了」ボタンをクリックします。



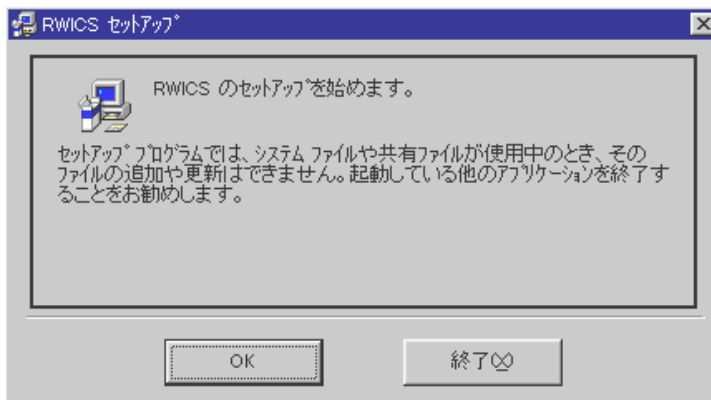
7. 初期化ファイルのコピーが開始されます。



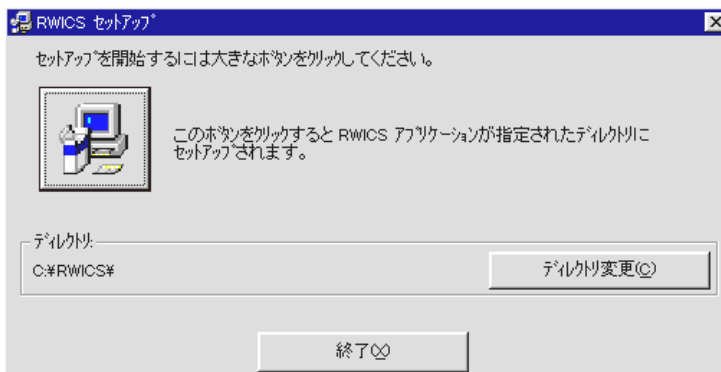
8. 「#1」のフロッピーディスクを取り出し、「#2」のフロッピーディスクをセットして「OK」ボタンをクリックします。



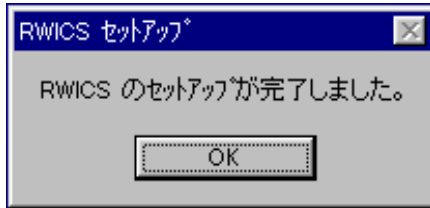
9. 「OK」ボタンをクリックします。



10. インストールするドライブ名とディレクトリ名を表示しています。インストールを続ける場合は、大きな「ボタン」をクリックします。また、インストール先を変更したい場合は、あらかじめドライブ名とディレクトリ名を入力し直してから「ボタン」をクリックします。



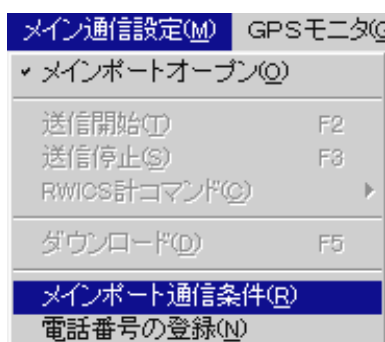
11. 「OK」をクリックして終了します。



データ通信

ケーブルによる接続の方法

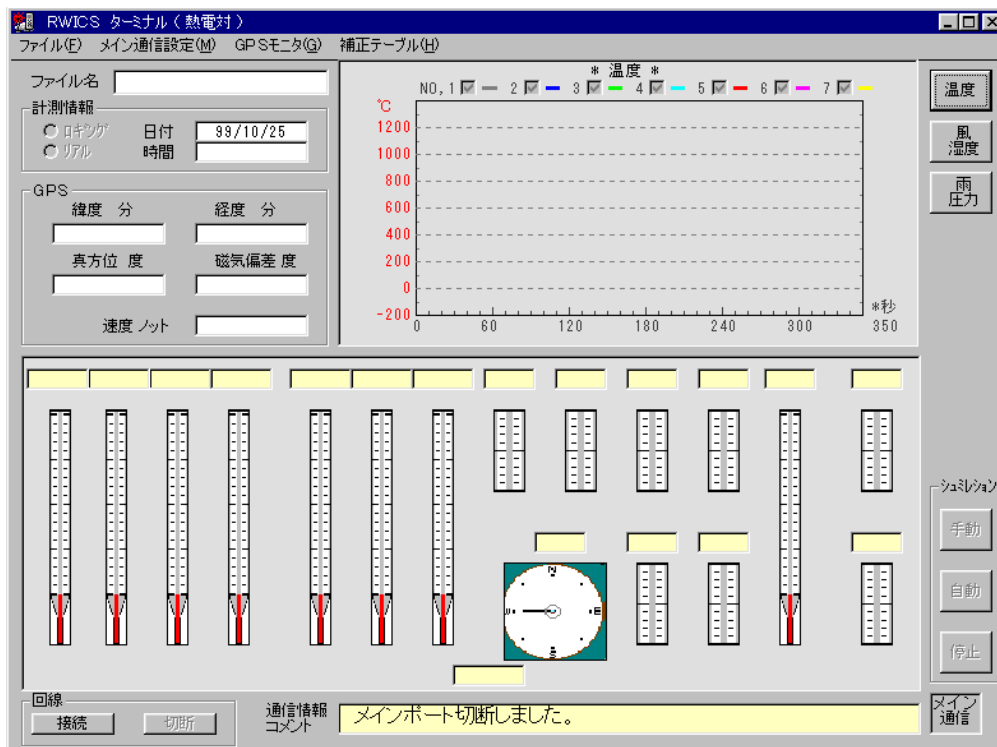
1. 本機の電源をOFFします。
2. P型通信ケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. D型通信ケーブルのコネクタをパソコンのRS-232Cポートに接続し、もう一方をクロス変換ケーブルのPC(パソコン)側ソケットに差し込みます。
4. P型通信ケーブルのもう一方をクロス変換ケーブルのソケットに差し込みます。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中のRWICSアイコンをクリックし、Rwics Terminalを起動します。
8. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**メインポート通信条件**をクリックします。



9. メインポート通信条件設定ダイアログボックスのポート番号 (COM1 ~ COM4) の内、通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドは白地を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

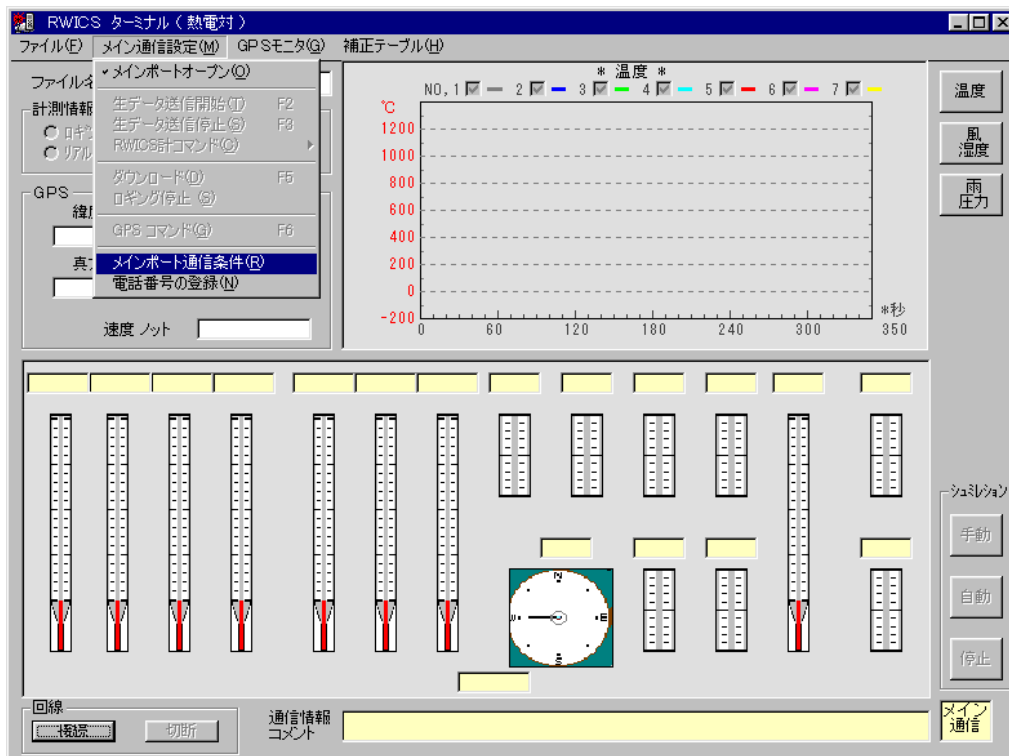


10. 回線の「接続」ボタンをクリックします。

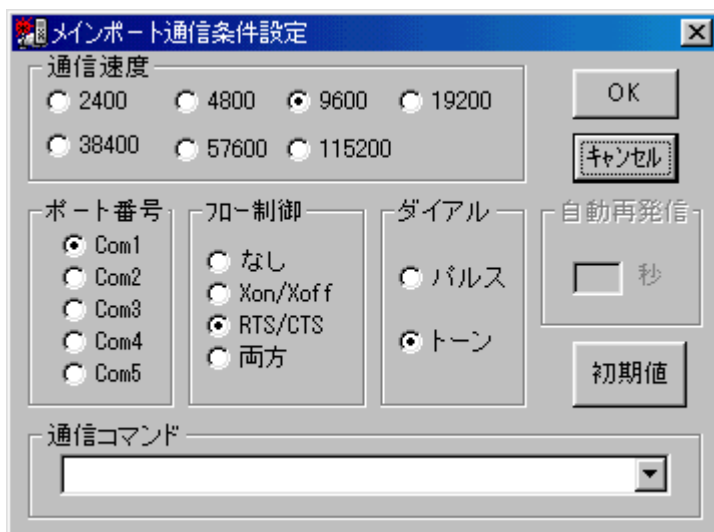


無線モデムによるパソコンとの接続

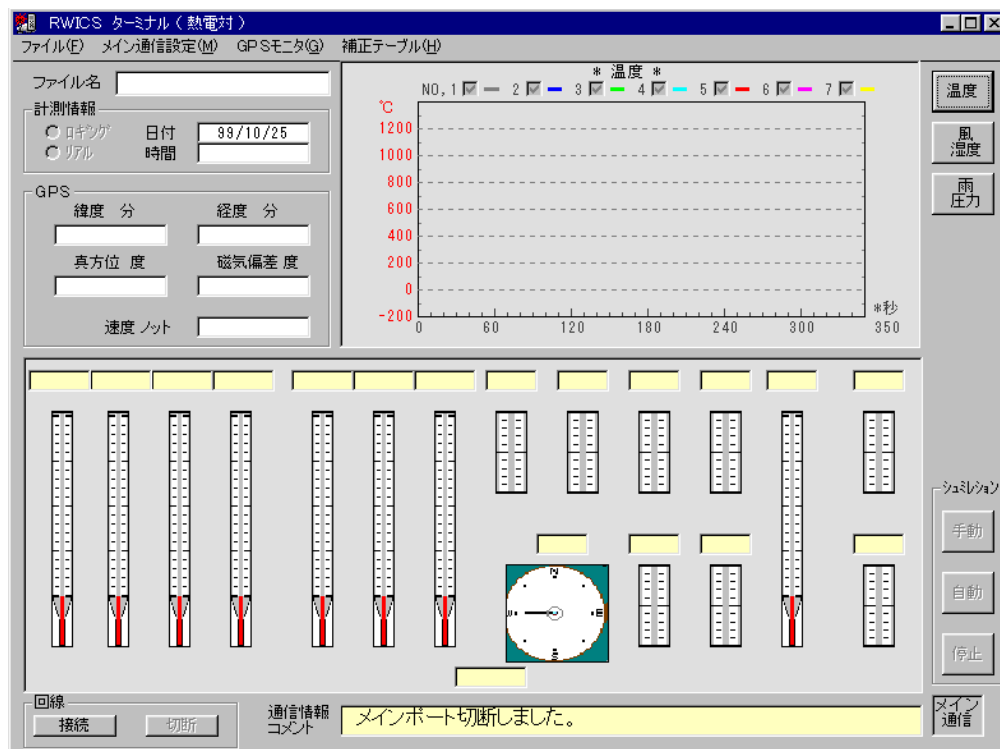
1. 本機の電源をOFFします。
2. COMポートミニケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. RS232Cケーブル For PCのコネクタをパソコンのRS-232Cポートに接続し、もう片方をリバースケーブルのPC(パソコン)側黒色のソケットに差し込みます。
4. COMポートミニケーブルのもう片方をリバースケーブルの白色ソケットに差し込みます。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中の **RWICSアイコン**をクリックし、RWICS Terminalを起動します。
8. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**メインポート通信条件**をクリックします。



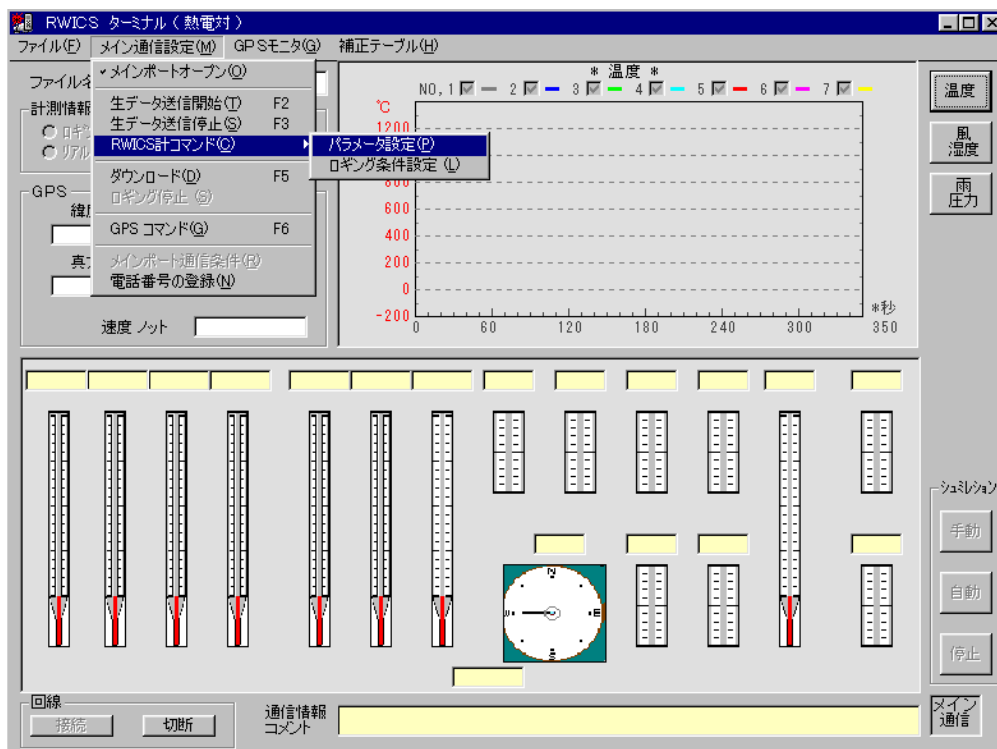
9. **メインポート通信条件設定ダイアログボックス**のポート番号（COM1～COM4）の内、通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドは白地を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



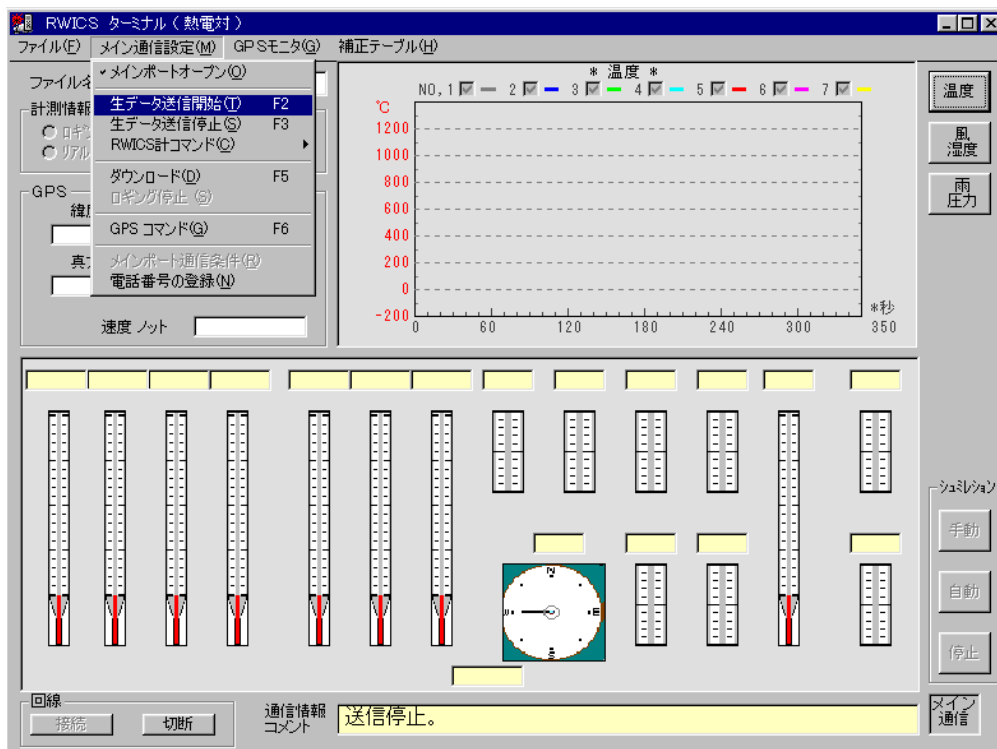
10. 回線の「**接続**」ボタンをクリックします。



11. パラメータを設定する場合は、メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**RWICS計コマンド**のパラメータ設定をクリックし、ポップアップメニューの**通信速度**の設定および**システム日時**の設定をします。

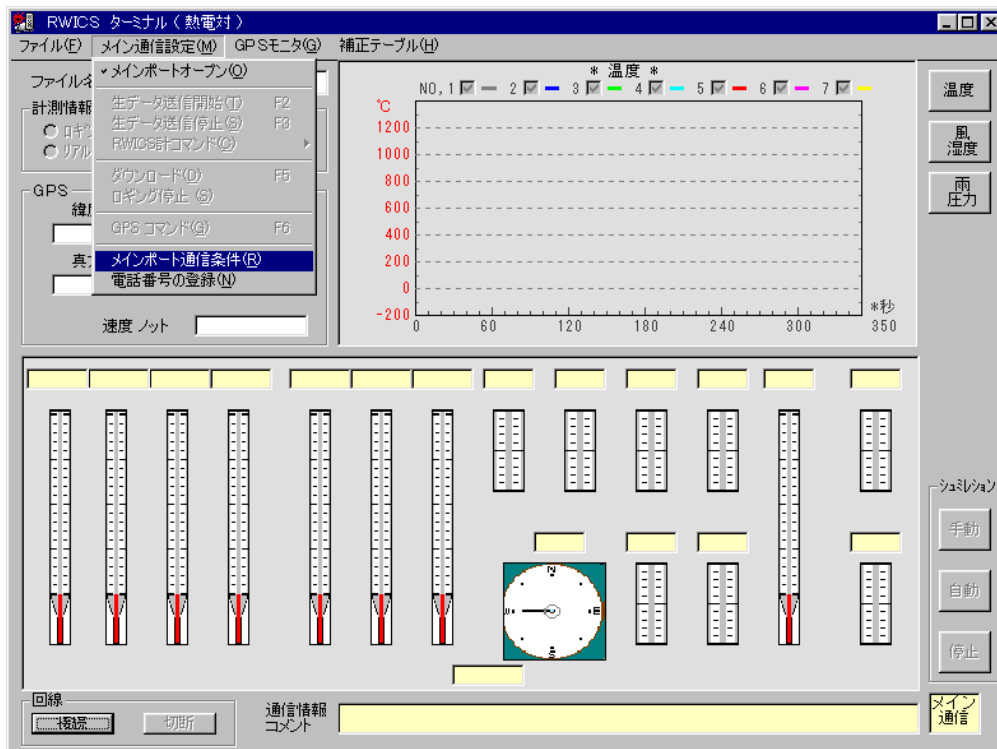


12. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**生データ送信開始**をクリックします。



携帯電話等移動体通信用アダプタやモデムによる接続

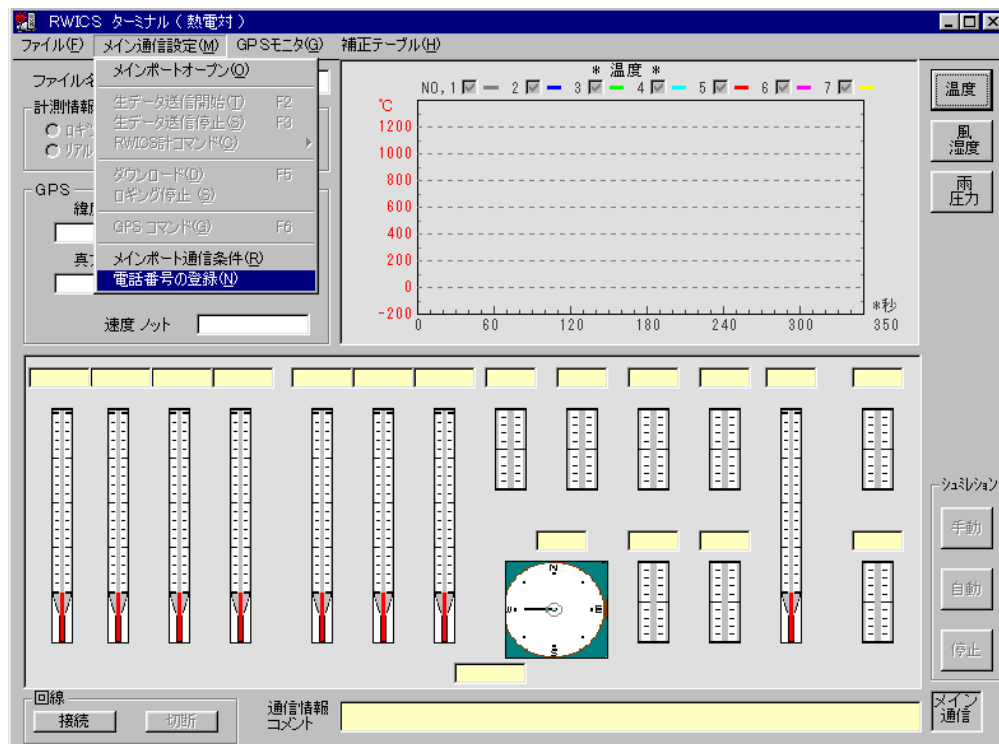
1. 本機の電源をOFFします。
2. COMポートミニケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. COMポートミニケーブルのもう片方を、モバイル変換ケーブルを使用して無線モデムのRS-232Cコネクタと接続します。
4. パソコンのRS-232Cポートにモデム・アダプタなど該当の通信機器を接続します。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中の **RWICSアイコン**をクリックし、RWICS Terminalを起動します。
8. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**メインポート通信条件**をクリックします。



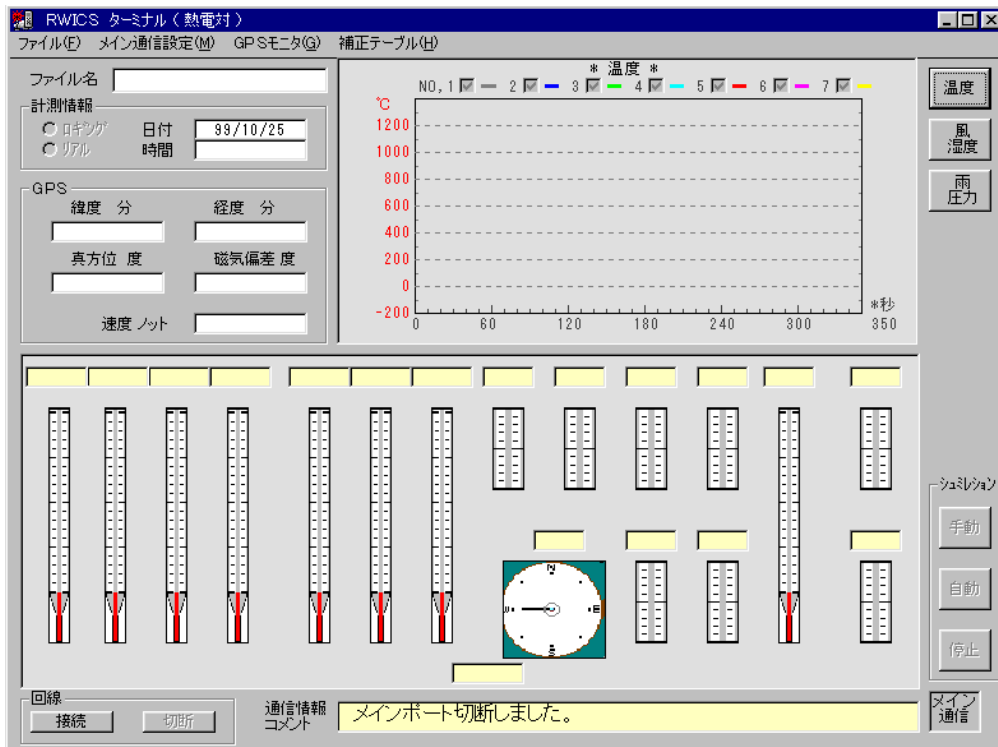
9. **メインポート通信条件設定ダイアログボックス**のポート番号 (COM1 ~ COM4) の内、モデム・アダプタなど該当の通信機器通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドは AT & F & C 1 を選択します。 **ダイヤル**は、ダイヤル回線の場合のみ、パルスを選択します。「OK」ボタンをクリックします。



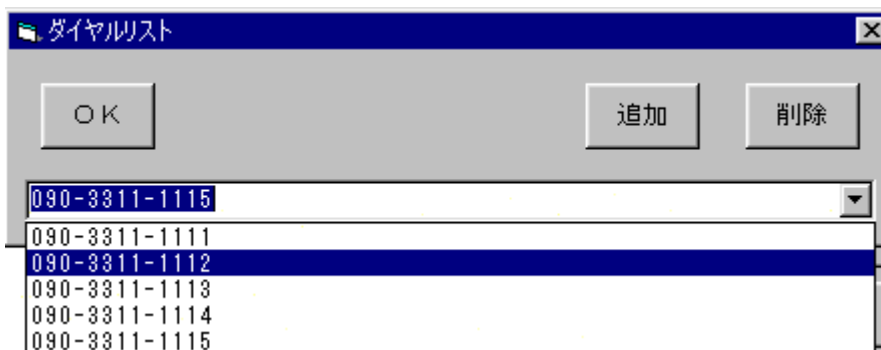
10. 電話番号を登録していない場合はメニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**電話番号の登録**をクリックします。すでに登録している場合は 11.へ進みます。



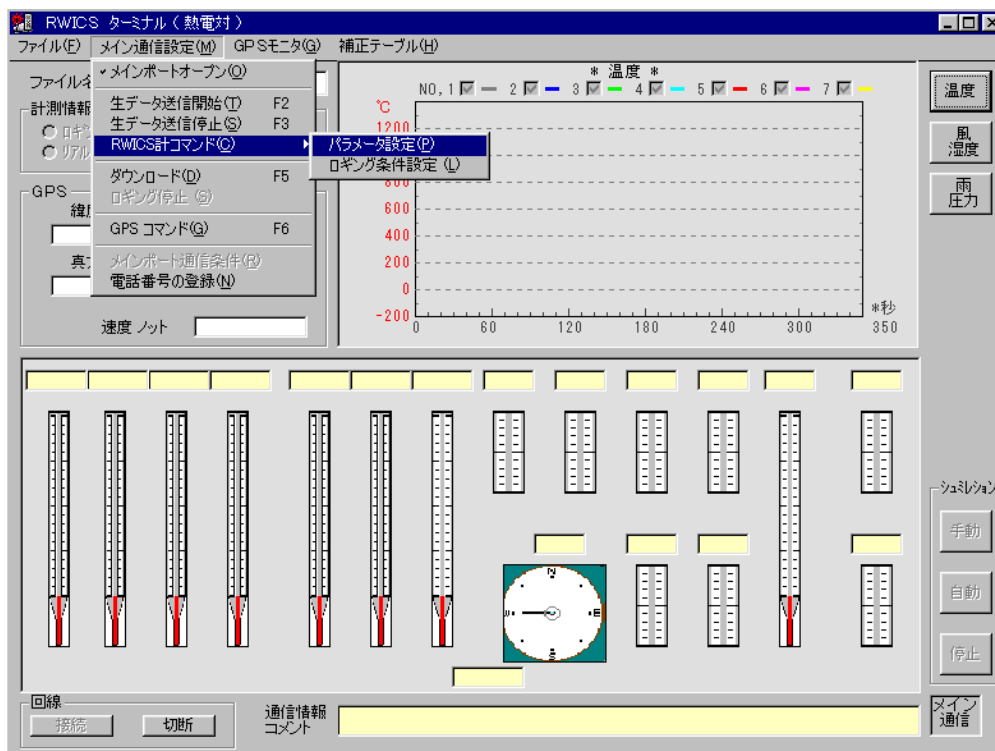
11. 回線の「接続」ボタンをクリックします。



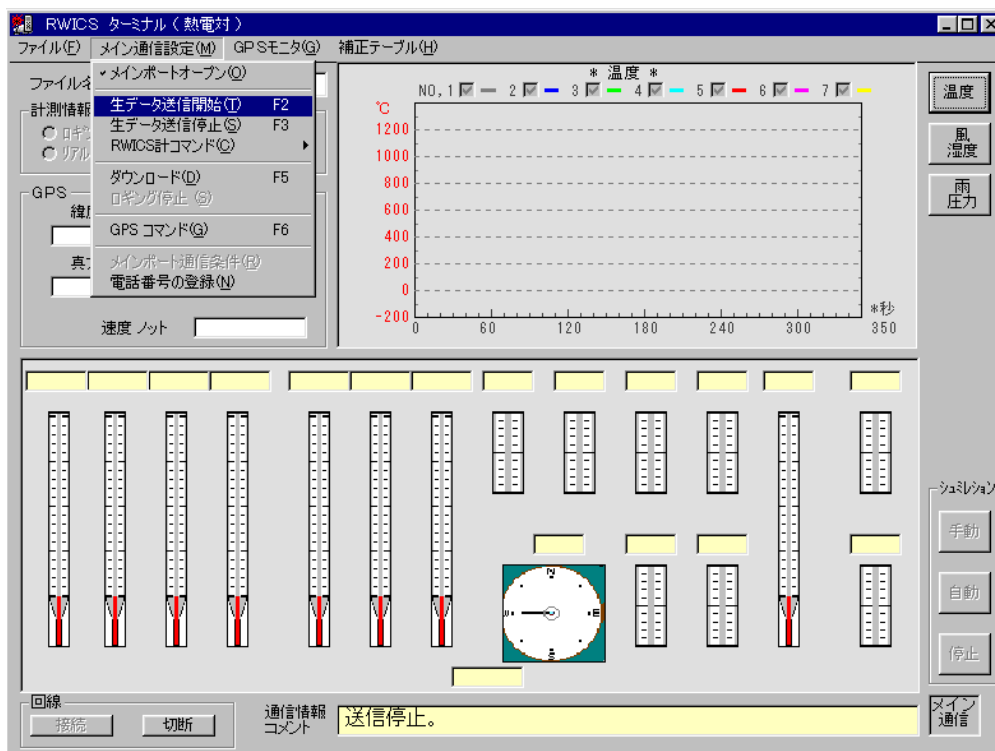
12. ダイヤルリストから接続先の番号を選択して、OKボタンをクリックすると接続開始します。



13. パラメータを設定する場合は、メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ホップアップメニューの**RWICS計コマンド**のパラメータ設定をクリックし、ポップアップメニューの通信速度の設定およびシステム日時の設定をします。



14. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ホップアップメニューの**生データ送信開始**をクリックします。

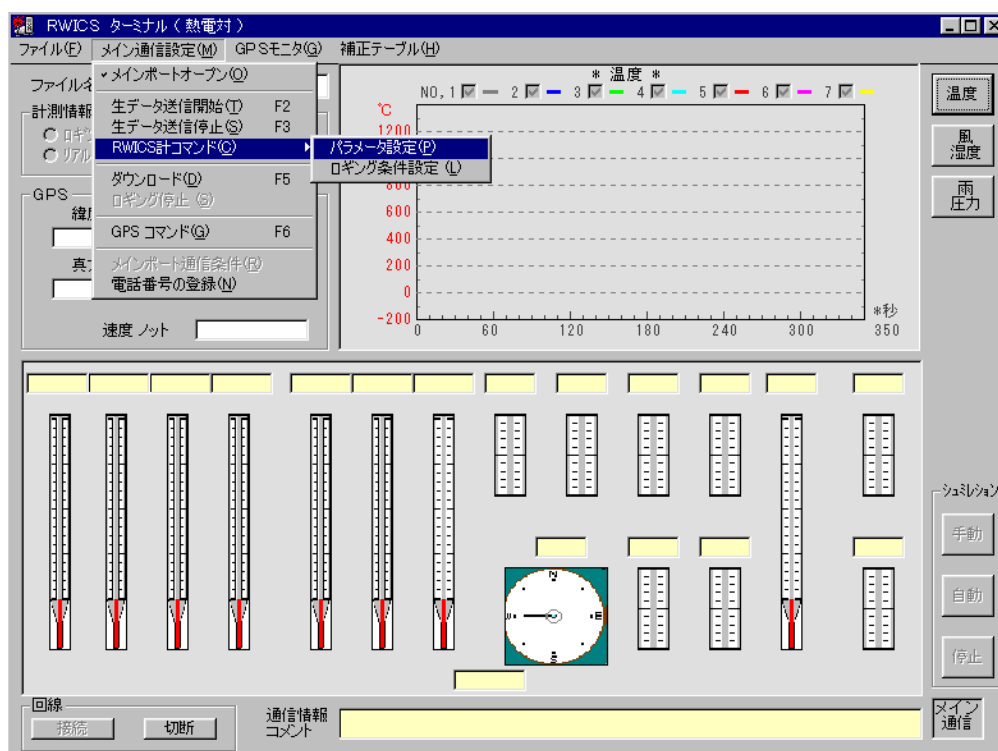


ロギング条件の設定とダウンロード

ロギング条件の設定

RWICSはRWICS Terminalと接続されていることを前提としています。
接続方法の詳細については、あらかじめ本説明書中にあるデータ通信の項目をよくお読みください。

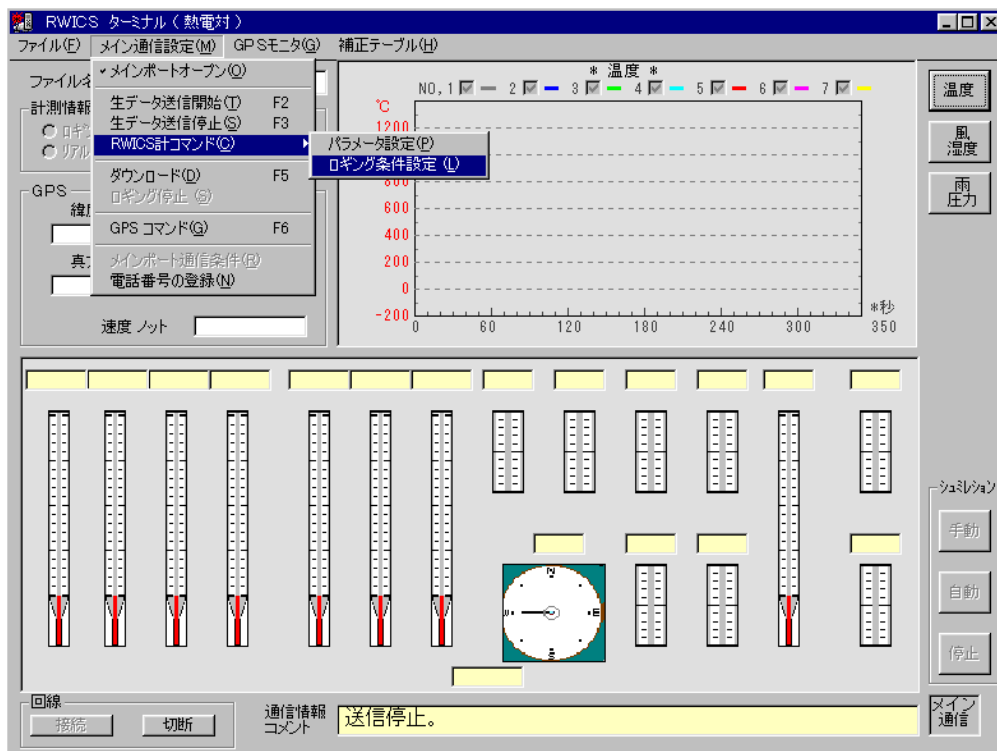
1. メイン通信回線の「接続」ボタンをクリックします。
2. パラメータ設定をする場合は、メニューバーのメイン通信設定をクリックし、ポップアップメニューのRWICS計コマンドのパラメータ設定をクリックし、ポップアップメニューの通信速度の設定およびシステム日時の設定をします。すでに設定している場合は 4 .へ進みます。



3. 通信速度の設定では、通信ボーレートを設定します。システム日時の設定では接続しているパソコンの日付・時刻を送信してRWICSの時刻を更新します。



4. メニューバーのメイン通信設定をクリックし、ポップアップメニューのRWICS計コマンドのロギング条件設定をクリックします。



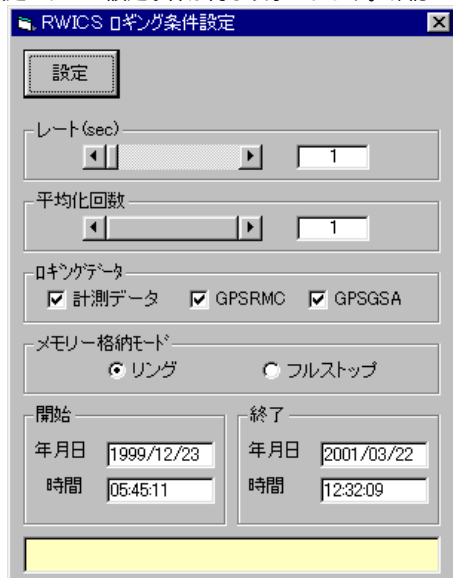
5. 最初に、RWICSに現在設定されているロギング条件が表示されます。変更しない場合は「×」をクリックして閉じます。ロギングを開始させるために、以下の項目について入力します。

レート ロギングの周期で、1秒～3600秒の範囲で設定できます。平均化回数は、1秒毎に計測したデータを指定した回数で平均して記録します。
 レートが1秒に設定されている場合は、平均化することはできません。10秒のレートでは最大10回までの平均化した値での記録が可能です。

メモリー格納モード リングはロギング開始～終了までの間に、RWICSがロギング可能な22,933回を超えるデータが発生した場合、最初のデータを消去して最新データを更新記録するモードです。
 終了までの間に、RWICSがロギング可能な22,933回を超えるデータが発生した場合は、ロギング停止するモードです。

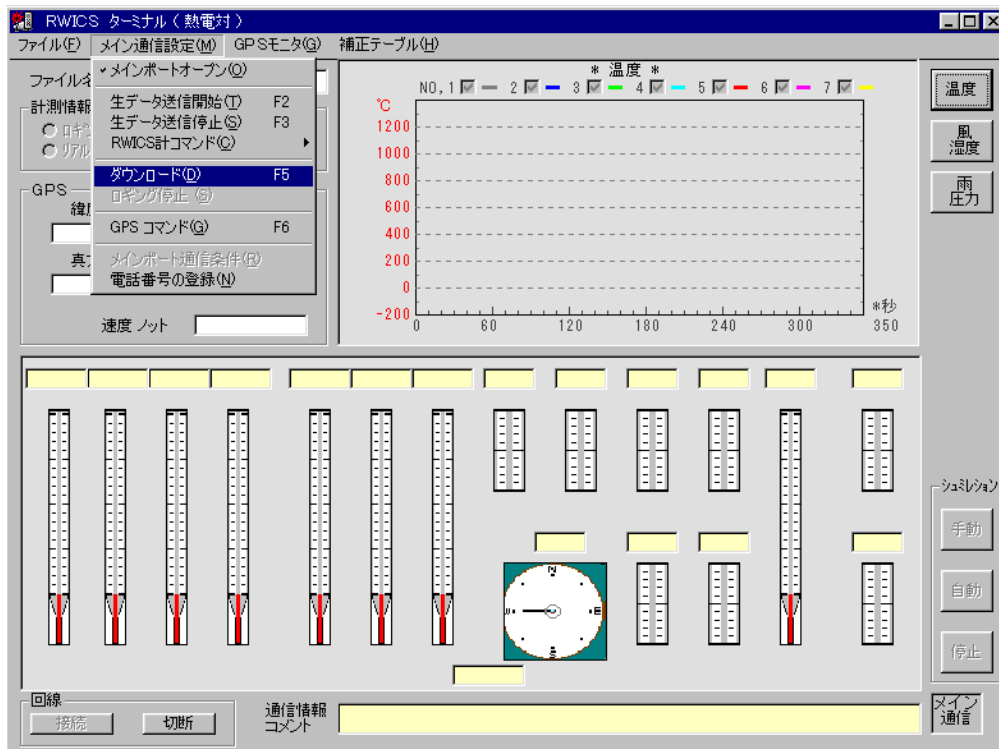
開始・終了 日付・時刻を入力して設定ボタンを押すと設定終了です。

設定されると設定条件が再び表示されます。確認して、正しい場合は「×」をクリックして閉じます。

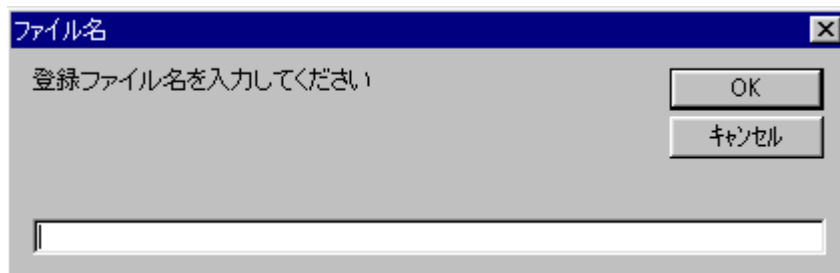


ダウンロード

1. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**ダウンロード**をクリックします。



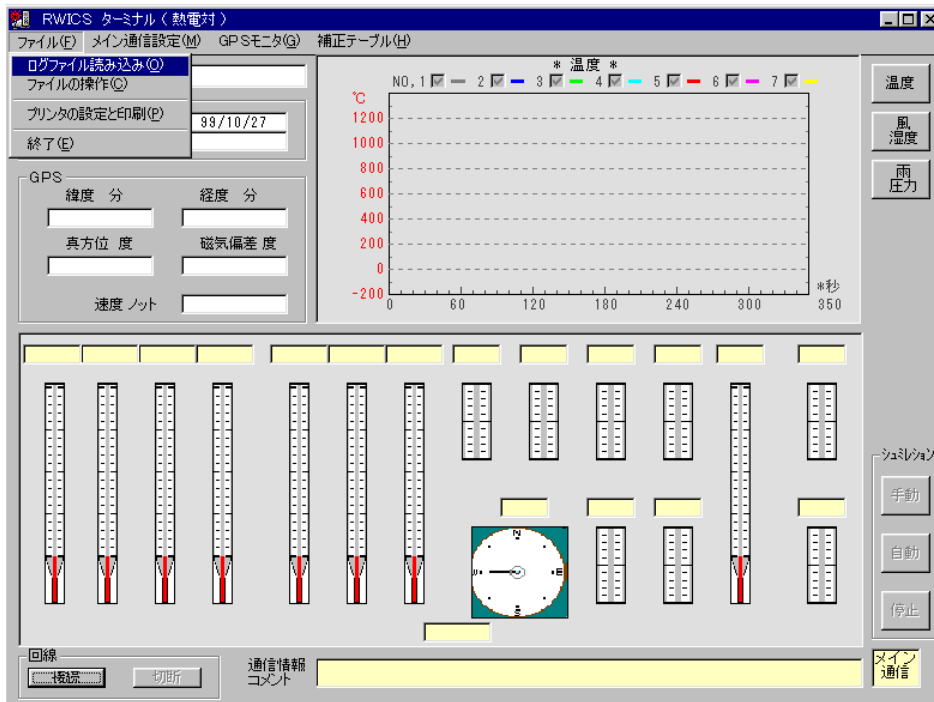
2. ファイル名を入力した後、「OK」ボタンをクリックするとダウンロードを開始します。



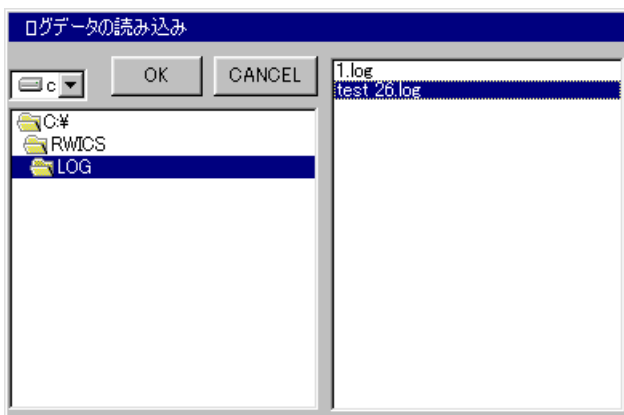
シミュレーション

ログファイルの読み込み

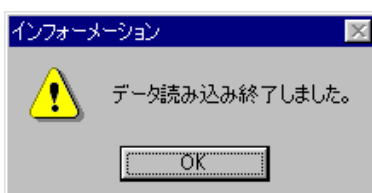
1. メニューバーの**ファイル**をクリックし、ポップアップメニューの**ログファイル読み込み**をクリックします。



2. ログデータの読み込みウィンドウが開きます。読み込むファイルを選択し、ダブルクリックするか、「OK」ボタンをクリックします。



3. 「OK」ボタンをクリックして終了します。



シミュレーション

1. シミュレーションの方法を選択します。

- 手動 手動で（マウスポインタを動かすことによって）シミュレーションを行います。任意の場所。計測時刻・時間等での計測データの確認が可能です。
- 自動 時間経過に沿って、自動的にシミュレーションを行います。
- 停止 シミュレーションを停止します。

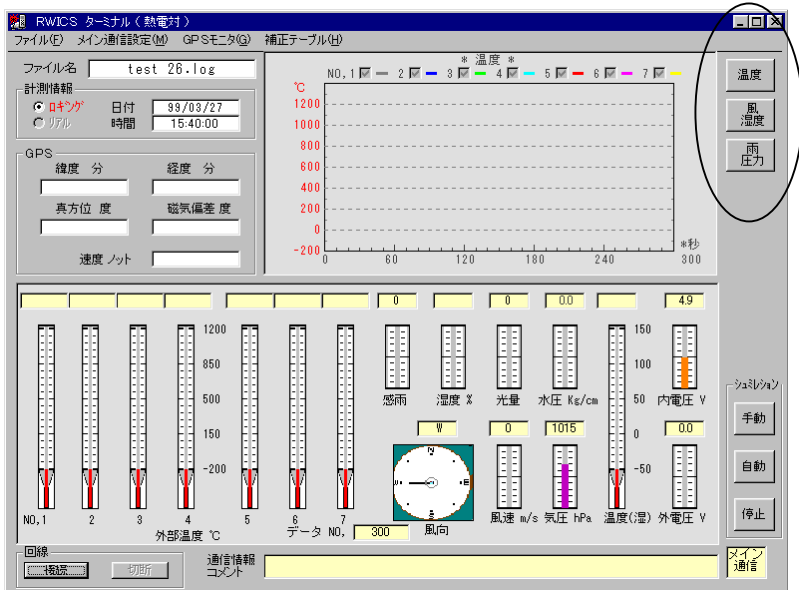
計測情報 ログ中... ログ中
リアル ... 生データ送信中

The screenshot shows the RWICS software interface. At the top, there are menu options like 'ファイル(F)', 'メイン通信設定(M)', 'GPSモータ(G)', and '補正テーブル(H)'. Below this, the 'ファイル名' is 'test 28.log'. The '計測情報' section shows '日付' as 99/03/27 and '時間' as 15:40:00. There are radio buttons for 'ロギング' (selected) and 'リアル'. The 'GPS' section has fields for '緯度 分', '経度 分', '真方位 度', '磁気偏差 度', and '速度 ノット'. The main display area is divided into several sections: a large '折れ線グラフ' (line graph) showing temperature over time, a row of 'デジタル表示と棒グラフ' (digital displays and bar graphs) for various sensors, and a '時計' (clock). On the right side, there are buttons for '温度', '風湿度', and '雨圧力'. Below these, there are 'シミュレーション' (Simulation) buttons: '手動' (Manual), '自動' (Automatic), and '停止' (Stop). At the bottom, there are '回線' (Line) buttons: '接続' (Connect) and '切断' (Disconnect). Labels with arrows point to various parts of the interface: '折れ線グラフ' points to the line graph, 'デジタル表示と棒グラフ' points to the sensor displays, '計測データのサンプル番号' points to the 'データ NO.' field, and 'シミュレーション方法の選択' points to the simulation mode buttons.

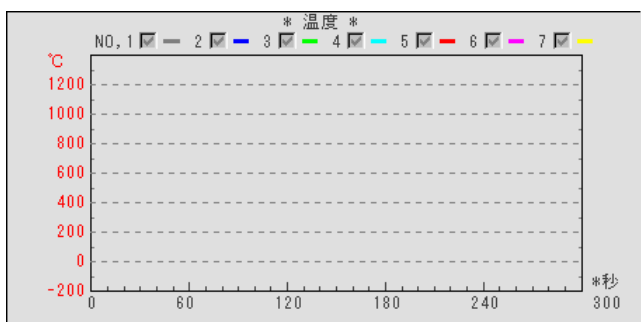
シミュレーション中の折れ線グラフ表示... 温度センサー選択時

This close-up shows the line graph during a simulation. The y-axis is labeled '温度' (Temperature) in °C, with a scale from -200 to 1200. The x-axis is labeled '時間軸 (秒)' (Time axis in seconds), with a scale from 0 to 300. A vertical 'カーソル' (cursor) is positioned at approximately 120 seconds. The graph shows a single data series for temperature. On the right side, there are buttons for '温度', '風湿度', and '雨圧力'. An arrow points to the '温度' button with the label '温度を選択' (Select temperature). Another arrow points to the 'チャンネル番号' (channel number) field, which is currently set to '1'. A third arrow points to the 'カーソル' label. At the bottom left, there is a label '温度レンジ (固定レンジ: -200~1200 °C)' (Temperature range (fixed range: -200~1200 °C)).

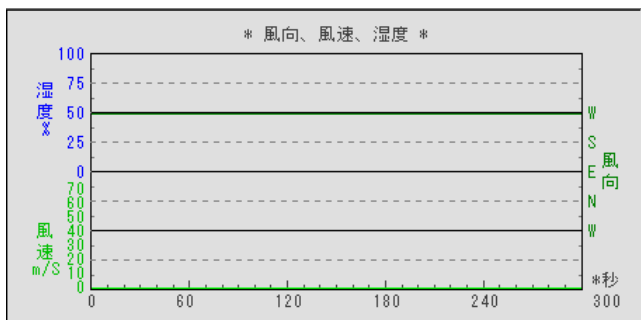
折れ線グラフ表示方法の選択



温度センサー選択時のグラフ表示 (デフォルト)



風・湿度センサー選択時のグラフ表示



雨・圧力センサー選択時のグラフ表示

